

## 日本建設技術㈱グループ研究発表会 原社長ら4人が成果発表

### ラフト&パイル工法など



挨拶する原社長

日本建設技術㈱(本社・唐津市北波多、原裕社長)グループは14日、唐津シーサイドホテルで2018年度研究発表会を開催し



研究成果発表会のようす

た。関連5社の社員、来賓など約200人が出席し、原社長ら4人が成果発表を行った。発表会は毎年開催しており、今回で15回目。冒頭、原社長は「会社の経営にはコンスタントな受注と利益確保が必要であり、社員一人ひとりが会社を良くするための言動を常に考えることが大切。顧

客に良い成果品を提供するのが会社の使命で、大きな技術の進歩にも繋がる。建設業および建設関連業でアイデアや想像する力を皆で出していけば、我々の会社はどんどん伸びると思う。今年もスマートな会社

づくりに取り組みたい」と挨拶した。成果発表では、企画開発戦略本部と総合情報技術事業本部の部長も務める原社長が「2017年度のあゆみ及びラフト&パイル工法とミラクルソルの併用」の演題で発表し、17年度と同グループの活動内容やラフト&パイル工法とミラクルソ

ルの併用(軽量盛土工法)について説明した。その中で原社長は「ラフト&パイル工法は地下水位以下に保持することで非常に高い耐久性を確保できる。筏基楚り上郭ミラクルノル軽量盛土工法を活用することも荷重低減の一つの手法となり得る」と話した。

続いて、総合情報技術事業本部情報技術課の内山佳樹係長が「港湾構造物の空撮について」、建設事業本部建設1課の広津大治主任が「老朽化した集水井の機能回復工事の事例」、企画開発戦略本部技術研究所の川副紀和主任が「中国珪砂を用いたミラクルソル製造について」の演題でそれぞれ成果発表を行った。

最後に前佐賀大学低平地沿岸海域研究センター長の荒木宏之氏が「研究成果発表会も15回を迎え、技術のレベルが会社と個人で上がっている。近年、技術の向上を色々な資格や点数などで評価する時代となっており、来年の発表会では更に良い結果が出ることを期待している」と研究発表会の講評を行った。

このほか、功労者表彰や新入社員の紹介があり、会場を移して懇親会も行われた。